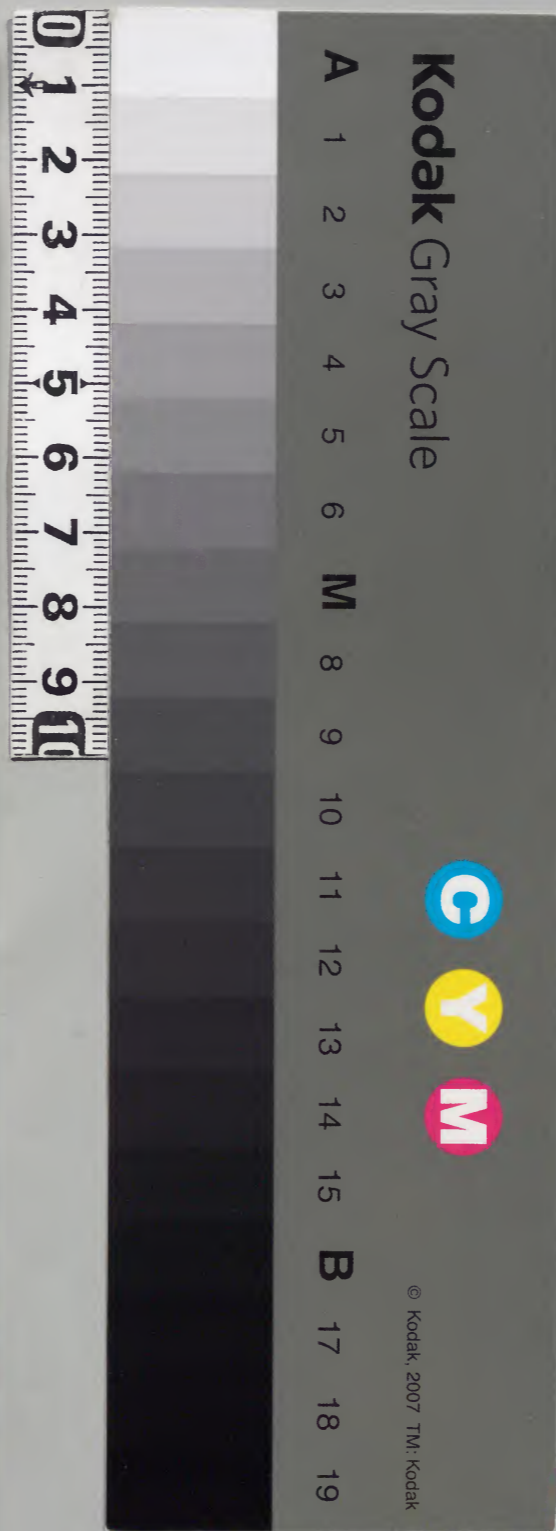


路原拾葉

十九至
三

庫文閣内		和
毛四函架	二九五八	書
一三	冊	類

内閣文庫	
番號	和 29568
冊數	23 (3)
函號	174 228



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

信濃 孫景清

信濃 中村文雄

男 元新

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

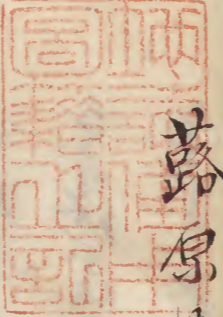
信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

信濃 孫景清

落原拾葉卷之九



信濃 中村元恒編

男 元起撰

内一〇七九七號

信濃宮傳

延元元年の冬二月上旬 信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り

一 越後山を以てのい楠三成り 信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り

信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り 信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り

信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り 信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り

信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り 信濃 母々 越後山を以てのい楠三成り



井伊高顯乾身山ニんのく運運もやまも口方の勢少

かり三河ふは勢勢 只勢を奉るの元勢元勢もたすたす中中も

しう勢勢の國國より良親良親王王 宗良兼兼くく口方口方

侍侍りりも多多たたししけけもも 取もも 口方の

将野介将野介の家家とぬ入入口口蒲原蒲原富士富士守津守津守の守名名保保守

りりも勢勢もああるる 口方の 口方の

と伝伝流流本本流流訪訪ええのの 口方の

口方口方の 口方の 口方の

奥國奥國二年十月二年十月三日三日口方口方宮宮所所運運入入もも 口方の

密密にに張張仲仲本本石石黒黒 張仲本石黒の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

一一條條のの將將具具信信 具信 口方の

法法藏藏 法藏 口方の

跡跡ふふ大大將將法法成成本本朝朝 法成 口方の

形形りりししううはは鎌鎌倉倉 鎌倉 口方の

二二郎郎山山 二郎山 口方の

師師のの引引延延るる 七月 口方の

口方口方の 口方の 口方の

攻攻東東 口方の 口方の

北北勢勢 北勢 口方の

出出新新 出新 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

此の口方口方の 口方の 口方の

五年二月五年二月 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

口方口方の 口方の 口方の

新葉集
磯辺里ト
アルハ智多
郡羽豆崎
ノ内ニ凡村也

甲良親三
羽豆郡
武井村
ノ内ニ凡村也

大世甫侍与宗政... 徳也... 天授二年... 武井村... 甲良親三... 羽豆郡... 武井村... 凡村也... 宗政... 徳也... 天授二年... 武井村... 甲良親三... 羽豆郡... 武井村... 凡村也...

の福を田持に給はるる家より其のいづる東國の言ひ
の字より傳へしは此方より傳へしよりも多しといふ事
せしむ 定住を宮に給して又 七年の正月を以て始りしもの多しといふ事

もいふ事ありしに上は玉置田在寺尾のいふ福

をいふ事ありしに武吉寺のいふ事ありしに福をいふ事ありしに

福をいふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

富士の大將といふ事ありしに富士の大將といふ事ありしに

あゝあゝ... 平橋合戦... 坂田... 世田... 羽... 中... 武... 三... 在... 殉... 也... 妙... 色... 川... 又... 建... 子... 今... 没... 陽... 打... 左... 右... 長... 信... 三... 二...

源 世良田為徳九政親

永享八年入
系出家ノ

左 桃井大膳亮満昌

大河内ノ祖

平 大庭雅宗

稻吉ノ祖

藤原 宗朝

大久保祖

平 大膳修理亮貞貞

光ノ

大膳左衛門尉定連

庸ノ

堀田左衛門尉正守

田ノ
安富細見
浦上一家

天野對馬守遠貞

乾美山一家

天野藤左衛門尉長弘

源 大鼓兵衛尉忠則

酒井祖

大鼓七郎左衛門尉忠房

河内成政祖

大鼓吉郎左衛門尉忠親

藤原 岡本左衛門尉高家

横江越前守政持

清原 平野主水正業忠

堂上、形橋伏見ノ祖
武家ノ神田ノ祖

平 徳谷山三郎直郷

高力祖

平 服部伴賀守宗純

平 志野武藏大輔運資

藤原 山川左衛門尉朝祐

左 河村相摸守秀清

左 光賀大膳亮為長

平 以玉左衛門尉宣政

貞年祖

宇作左衛門尉秀幹

穂積 鈴木右衛門尉重政

源 恒川大系 信矩

左 関田誠後守政安

丹波 野々村兵庫頭秀盛

此个牧野鶴殿菅沼山内備恒内藤小出副田戸田園田
久兼永田小山等と惣集家あり始て西行寺村より又
後三羽流なり今此より又尾流と濃を江出元好と

一と考へし毎一は後裔なりと云ふ

一本土肥郡那賀町平井屋別荘新設の一色村小入久田吾郎中之春と考
日并数多向村も居也始々川氏なり是等川大和所立の今日如き意
は後流也也氏不為あり能考中事其後より
は別後傳りたると古記有り也

附録

尾羽津系の家

大橋 岡本 山川 恒川

同 齋七黨

堀田 平野 服部 志野 鈴木 河野 光賀

始て申置承りし永亨伯と遺り屋別と稱し任せし
とて右故右府信長公の時敵討しるは流と爲
下之屋とす大岡寛吉公の口下知能少あり云ん
一系も多しありと云ん

津系も此と多社と誼滅天皇の御あり初孫とす頼朝也

と身孫念より造進 後郎と信延徳之年候二月一位

と授て日本惣社と号せし 後龜山院弘和元年丙申

造管 此の宮の事 師之師殿より元年丙申七月十二日堀田孫郎

正泰姓祖武内右衛門尉と云ふ
正泰後在の作叙長は在平無事四年 津系
正月の内四宗堀子にて終り

宗永亨八年丙寅二月十五日始四家七家あり津嶋津多初尹
良親王の御二男良新なり良新男子なり富井大
守助平宮保以て嗣を承中家孫水室部を承せし
と云ふ定後中太極
定元あり

同國一宮四家

南朝奉右平記り依分利智と云ふ者あり又云あり
名分利智と云ふあり依分利と云ふ又云中々各々
利と云ふあり

関兼松依分伴也これ又宮方其職執りしついで
元一拙平年二十二年北朝貞
治五年二月宮東の宮方平一職首
山と武別河越を越ひしり同年六月平一換取為り
保國之者也と云ふ此子孫龜山に伝はり其一宮と云ふは依分
也云ふあり兼松と橋氏楠一黨は依分と云ふ系に依り
長清の二男は依分多に少補師長の高ありしと云ふ
此書雖為武家職秘本強請之書与卑不可必
門外者也

信濃宮後系

宗良親王

後醍醐院第三
皇子一品中務
郷征夷將軍號
信濃宮

興良親王

無品號遠江守
二品上野太守宇津峯宮
母井伊助道政女

良王

住尾州津嶋
母世良田政義女

良新

津嶋神主称永室

貞常

大學助津嶋神主
實大橋貞元男

神主

後称大橋和泉守信重
母大橋修理亮貞元女

貞廣

大橋中務太輔
童名太郎綱言

貞安

大橋和泉守
有子孫

女子

蜂須賀正則妻大永六年生
小六利政

大橋氏略系

貞省

平自經裔代住尾
張津嶋三河守

貞元

大橋修理亮

貞庸

左衛門尉
修理亮

信吉

大橋三河守
有子孫

貞矩

大橋駿河守

貞敏

大橋太郎左門
子孫在尾州三州

貞常

小田井大學助
津島神主相統

正治

長田平右門尉
任三州大濱

貞英

稲垣真人正
任三州

女子

源良王君室
貞常以下四人貞元子也誤為貞庸子

一歳中身弱旅りのお物持のり
一ハ細湫と大湫との間に深澤林の先内裏林を家の跡あり
とて川より心善法とて障形を築き置けり石とて
とんとてとてとてとてとて

内裏屋敷

私考

後醍醐皇子尊澄法親王

還俗
宗良

御子良親王元中三年八月

賜源姓自和州吉野應永四年下向上野回同廿一年四月出上野

入信州知久祐矯于野城同八月出子野城赴三河回於路次為賊

兵殺尹良御子良王上州寺尾城誕生正長元年下野回三河

因落合城永亨五年赴信州同七年又赴三河回十二月廿日到三州

鳴瀬邨同月廿九日入尾州津島是より御流浪ナシト云

○大橋氏系下中尾川口より以茂野所接津島子孫之

信好曰重政ハ
山安三生ノ延元
元年卒ス
三郎大夫イナ
ルハシ

又曰重春
宣上三卿ノ
祀トナルト別
定ノ記録此
在城臣卿ノ
真号トハ
重高臣臣卿ノ
香積寺ノ傳
ハ臣卿中將重
高ト改メ華
ナルト云

時代ト云申前多ク
大橋岡本恒川山川
堀田平野服部
光賀河村七右正成
甲良右六土堂ノ士ノ不給也
君此
例ト云ル申ルハ
此時リ終本家ト
裁後ノ正成
右京ノ武

大橋岡本恒川山川堀田平野服部終本真野

光賀河村七右正成甲良右六土堂ノ士ノ不給也君此

例ト云ル申ルハ

此時リ終本家ト裁後ノ正成右京ノ武

右京ノ武

甲良申生官ノ後ト申子良王君汝書後ト

申ハ正成元年ト云

終本家多ク君穂積重政

是々ト云三年世名
大橋家傳説

此之三年官成ノ河國臣卿ノ終本家君穂積重政

大龍院殿故二品上州大守甲良親王ノ後ノ公ノ終本家元

重政あり

良王ノ三河國設生親作ト正成寺トハ不知也トハ

津島藤原権三郎

此ト則皇朝久世神を更終本家ノハ津島ハ乃今也

時ノ云々

大光院再興之事

創業記考異卷八
慶長十六年辛亥

十月六日大御所為鷹野関東ハ御下但駿府ヲ
御立ナリ日十六日江戸御着

同廿五日増上寺御参詣日廿六日大御所為鷹野江戸ヲ出玉

戸田ニ着同廿九日川越ニ御鷹野大御所於江戸徳川御先退

